



わたしの青少年赤十字

詩・100文字提案作品集

「東日本大震災」 子どもたちからの声



はじめに

青少年赤十字の大きな特色は、学校教育の中に組織され、教師の適切な指導の下で実践されていることです。

日本赤十字社福島県支部は、各学校が、子どもたちに青少年赤十字を通して人間尊重の精神を育み、子どもたちがより積極的に青少年赤十字活動を推進することによって、自らが豊かな人間性の醸成を図ってほしいと願っています。

このような考えから、福島県支部では、本年度も県内の青少年赤十字加盟校の児童生徒を対象に、「詩・一〇〇文字提案作品」を募集いたしました。本年度も、海外の赤十字社から寄せられた救済金で推進されている「東日本大震災復興支援推進事業」の一つとして実施いたしました。多数の優秀な作品の中から「日本赤十字社社長賞」「日本赤十字社福島県支部長賞」「青少年赤十字福島県指導者協議会長賞」「福島県青少年赤十字賛助奉仕団委員長賞」を特別賞として選び、以下、「優秀賞」「佳作」「入選」を選定させていただきました。また、受賞した作品が多数の学校には「学校賞」を、五年連続で応募された学校には「学校奨励賞」を授与させていただきました。

今年度もこれらの受賞作品をまとめ、本冊子を刊行することができましたことに深く感謝いたします。「人道」の精神のもと、子どもたちが未来に大きな夢を持ち、それに向けて努力する生き生きとした姿を感じ取っていただければ幸いです。

募集作品

□詩（いのちの詩・愛の詩）

人間のいのちはかけがえないもの。

そのいのちを守るために、自分や周りの人、生きものを大切にしなければなりません。そんなみなさんの素直な願いや感動を、そして未来に向けての夢・希望をぜひ詩に託して表現してほしいと願い、作品を募集しました。

□わたしの一〇〇文字提案

「気づき、考え、実行したこと、しようとしたこと」を次のテーマから選んで、自分の考えを端的に表現した作品を募集しました。

「わたしにできるボランティア」

「わたしのふるさと」

「わたしが感動したことはやできごと」

はじめに・募集作品

目次

特別賞及び学校賞・学校奨励賞

特別賞受賞者、学校賞・

学校奨励賞受賞校……………4

日本赤十字社社長賞……………5

日本赤十字社福島県支部長賞……………6

青少年赤十字福島県指導者

協議会長賞……………10

福島県青少年赤十字賛助奉仕団

委員長賞……………11

詩「いのちの詩・愛の詩」

優秀賞……………14

佳作……………19

入選……………28

一〇〇文字提案

「わたしにできるボランティア」

優秀賞……………32

佳作……………36

入選……………49

一〇〇文字提案

「わたしのふるさと」

優秀賞……………52

佳作……………55

入選……………65

一〇〇文字提案

「わたしが感動したことばや

できごと」

優秀賞……………68

佳作……………71

入選……………79

作品応募校……………81

作品審査を終えて……………82

年度別応募状況・平成三十年度
テーマ別応募作品数……………84

審査にご協力いただいた皆様……………85

〔表紙〕

日本赤十字社東京都支部

石田 遊星

特別賞受賞作品



日本赤十字社社長賞

「わたしが感動したことばやでござい」

郡山市立富田東小学校

五年 横山 知明

日本赤十字社福島県支部長賞

「いのちの詩・愛の詩」

郡山市立富田東小学校

二年 林 咲空

「わたしにできるボランティア」

須賀川市立第三中学校

三年 鈴木 眞優

「わたしのふるさと」

郡山市立富田東小学校

六年 志田 柚季

「わたしが感動したことばやでござい」

白河市立白河第二中学校

一年 ルモイン マノン

青少年赤十字福島県指導者 協議会長賞

「わたしのふるさと」

相馬市立日立木小学校

二年 太田 璃音

福島県青少年赤十字賛助 奉仕団委員長賞

「わたしにできるボランティア」

福島県立平支援学校

二年 谷 康大

学校賞

福島市立福島第一小学校

郡山市立富田東小学校

須賀川市立阿武隈小学校

相馬市立日立木小学校

福島市立福島第一中学校

福島県立白河旭高等学校

学校奨励賞

福島市立福島第一小学校

須賀川市立阿武隈小学校

日本赤十字社 社長賞

「わたしが感動したことばやできごと」

郡山市立富田東小学校 五年 横山 知明

今年の三月十日、

小学生だったお姉ちゃんが津波からにげた道を、いっしょに歩いた。
すごく寒くて長い道のりだった。

当時の気持ちを想像してみたけどピンと来ない。

ただ、となりにお姉ちゃんがいて、うれしいと思った。

日本赤十字社 福島県支部長賞

「いのちの詩・愛の詩」

郡山市立富田東小学校 二年 林

咲空

日よう日のあさごはん。

おにいちやんがおもしろいことを言う。

おねえちゃんがクスツとわらう。

おとうさんがわらう。

おかあさんもわらう。

かぞくみんなわらう。

そんな日よう日のあさがぼくは大すきだ。

「わたしにできるボランティア」

須賀川市立第三中学校 三年 鈴木 眞優

ようやく腰まで伸びた髪。

丁寧に手入れして伸ばし続ける理由は、

「ヘアドネーション」に協力したいから。

もう少しで目標の五十センチメートル。

髪をとかす度、

誰かの役に立てるかもしれないと思える毎日が、

少し嬉しい。

「わたしのふるさと」

郡山市立富田東小学校 六年 志田 柚季

今年初めて、父と畑を作った。

震災から放置された祖母の畑。

苗を植えるまで、何日もかかった。

大地とふれ合う気持ち良さ、

野菜がぐんぐん育つ様子に、自然のエネルギーを感じる。

今この畑は、私のパワースポットだ。

「わたしが感動したことばやできごと」

白河市立白河第二中学校 一年 ルモイン マノン

〃僕の希望は、生きること〃

赤十字の募金についてきたメッセージの一つ。ミャンマーの少年の文章だったような気がします。

それを見た時、私は衝撃で呼吸が止まりそうになりました。

生きることだけが希望だなんて、生きることを希望と呼ぶなんて、どんなにつらい苦しい思いをしてきたのだろうか。

ずっと心に残っている言葉です。

青少年赤十字福島県指導者協議会長賞

「わたしのふるさと」

相馬市立日立木小学校 二年 太田 璃音

今年 しんさい後

はじめての

海びらき

とってもきれいな海

すきとおった海水

さらさらのすなはま

気持ちいいかぜ

たくさんの人に

きてほしいな

そうまの海に

福島県青少年赤十字賛助奉仕団委員長賞

「わたしにできるボランティア」

福島県立平支援学校 三年 谷 康大

僕は障がいがあることが嫌だった。

でも、障がい者目線のボランティアをしているうちに、

障がいは気付きをくれるものだと思うようになった。

「僕だからこそ気付けることを社会に発信する」

これが僕に出来るボランティアだ。

詩
「いのちの詩・愛の詩」



「いのちの詩・
愛の詩」

優秀賞

福島市立福島第一小学校

四年 佐久間信乃介

須賀川市立大森小学校

三年 関根 凜空

三年 関根 怜那

白河市立表郷小学校

五年 大久保雅哉

福島大学附属中学校

二年 占部 太提

白河市立白河第二中学校

三年 真舩 永遠



「いのちの詩・愛の詩」優秀賞

福島市立福島第一小学校 四年 佐久間信乃介

いここが生まれた。

とても、とても小さかった。

でもね、ぼく指を出したら、その小さな

小さな手でぎゅっとしたんだ。

それは、おどろくほど力強く。

その時ぼくは、

この子を守ってあげたいなあ

と思ったんだ。

須賀川市立大森小学校 三年 関根 凜空

ぼくはねぞうがわるいです。

「けられていたい。」とみんな言います。

でも、おじいちゃんだけは、

「けられてうれしい。」と言います。

いたくていやなはずなのに、

うれしいなんてふしぎ。

そんなおじいちゃんが大好きです。

須賀川市立大森小学校 三年 関根 怜那

私には弟がいる。

私も弟も、お母さんの

だっこが大すき。

あたたかくて、

やわらかくて

幸せな気持ちになる。

弟のつぎにだっこ。

ときどき、私が先にだっこ。

お母さんのだっこは、

みんなが笑顔になる

まほうのだっこ。

白河市立表郷小学校 五年 大久保 雅哉

「ただいま。」

いつもの返事がない。

「ただいま。」

返事がないのわかってて、わざと言って

さみしくなった。

じいちゃん早く帰ってきてよ。

今度はぼくが

「おかえり。」

って言うからさ。

福島大学附属中学校 二年 占部 太提

学校からの帰り道

いつもは聞こえない

だけど

今日は聞こえてきた

気にするな、大丈夫

がんばれよ

いつでも応援してるよ

歩みを止めて

足元を見る

そこには先程降った

通り雨の粒を輝かせ

南風にゆれながら

しなやかに立つ

青々とした猫じゃらし

よし、明日も頑張るぞ

白河市立白河第二中学校 三年 真船 永遠

盆灯籠

風に揺れる

祖母の力強さ思い出す

盆提灯

灯が踊る

祖母の笑顔思い出す

お墓参り

蝉の鳴き声

皆の涙思い出す

忘れない

精一杯命を全うした

祖母の温かさ

心でずっと生き続ける

前向きに生きよう

誰でも尊い命

笑って精一杯

ゆっくり歩いて行こう

「いのちの詩・
愛の詩」

佳
作

福島市立福島第一小学校

一年 清野 陽菜

五年 鈴木 悠生

六年 相樂 歩音

伊達市立堰本小学校

六年 阿久津 芹奈

郡山市立桃見台小学校

六年 近藤 愛歌

郡山市立富田東小学校

一年 花岡 胡羽

二年 戸井川 詩歩

三年 江口 凌生

四年 佐藤 結

四年 枝並 克幸

五年 二瓶 陽向

郡山市立朝日が丘小学校

三年 永井 裕真

須賀川市立阿武隈小学校

五年 水野 友愛

須賀川市立柏城小学校

三年 及川 柚月

四年 阿部 苑子

鏡石町立第二小学校

四年 面川 陽莉

白河市立表郷小学校

一年 近藤 千流

相馬市立日立木小学校

一年 村上 琉大

二年 菊池 颯良

いわき市立郷ヶ丘小学校

六年 高木 純奈

福島市立福島第一中学校

二年 佐藤 芙佑美

三年 長正 明日翔

三年 武野 大亮

須賀川市立第三中学校

三年 佐藤 悠雅

西郷村立西郷第二中学校

一年 小野寺 陽泉

いわき市立藤間中学校

一年 藤原 梓咲

福島県立白河旭高等学校

一年 関根 里沙

『いのちの詩・愛の詩』佳作

福島市立福島第一小学校 一年 清野 陽菜

あかちゃんをみにいった
とてもちいさくて やわらかかった
わたしとおなじふくしまにうまれてきてくれてありがとう
うれしいよ あなたもわたしも ふくしまのきぼう
このまちのみらいになっていくいのちだよ

福島市立福島第一小学校 六年 相樂 歩音

うさぎはさびしくなると死ぬという。
それは人間も同じだと思う。
こ独を感じて死にたいと思う人がいる。
でも、大丈夫だよ。
君を見ってくれる人はいる。
君を想ってくれる人はいる。
だから君は決して一人じゃない。

福島市立福島第一小学校 五年 鈴木 悠生

「たね」ぼくはなぜか、種が大好き。
土に植えると、一生けん命に芽を出し、葉を開く。
「力強く生きているよ。」と伝えてくれる。
ぼくも答えて、日光の愛、栄養の土、いやしの水を供え、
気づくとぼくが育てられている。

伊達市立堰本小学校 六年 阿久津芹奈

本を読む
話を聞く
一緒に片付けをする
そばにいる
悪い事したらおこる
できたらほめる
分からない事を教えてあげる
一緒に調べる
できる事はささやかだけど
いっぱいいっぱい私が弟にやってあげたい事。

郡山市立桃見台小学校 六年 近藤 愛歌

シロツメクサって
小さくて 目立たない
でもたくさん集まると
花のかんむりになれる
かんむりになると
シロツメクサの命と命がからみあう。

はかない命の私達
だけど命と命が協力すれば強くなる

郡山市立富田東小学校 一年 花岡 胡羽

いのちはしゃぼんだま
うまれて きえて
うまれて きえて
こわれないで
きえないで
こわれないで
きえないで
だからわたしは
やさしくやさしく
いきをふくよ

郡山市立富田東小学校 二年 戸井川詩歩

今日、ともだちに、やさしくされたよ。とつてもうれしかった。
今日、ともだちに、いじわるされたよ。とつてもかなしかった。
みんなが、わらっているとうれしいな。
ないていたら、どうしたのって聞いてあげよう。

郡山市立富田東小学校 三年 江口 凌生

ぼくのいのち
まだまだ小さいいのち
友達にやさしくしよう
ごはんを食べよう
いっぱい遊ぼう
ニコニコわらおう
毎日ががんばっていたら
大きくなるかな
キラキラ光るかな
ぼくのいのち

郡山市立富田東小学校 四年 佐藤 結

今日は
ぼくのたんじょう日
きのうもだれかのたんじょう日
あしたもだれかのたんじょう日
毎日がたんじょう日
おいわいしよう毎日を
だいじにしよう毎日を
命が生まれただいじな日

郡山市立富田東小学校 五年 二瓶 陽向

背伸びしてみたら
かもいに手が届いた
毎日音読がんばったら
教科書暗唱できた
片手しかできなかったピアノ
毎日練習したら
両手でスラスラ
大きくなる 上手になる
うれしくて
毎日チャレンジ

郡山市立富田東小学校 四年 枝並 克幸

雨あがり見つけた
小さなカエル
道路にいたら危ないよ
ぼくはヒマワリの葉に
そっとのせた
小さくても生きている
だから守ってあげよう
ぼくとカエル
同じ地球で
生まれたから

郡山市立朝日が丘小学校 三年 永井 裕真

ぼくに弟が生まれた。
ずっと楽しみにしていたけど、本当は、ママをとられるような
気がしてかなしいような不安な気持ちだった。
でも、生まれたらすごくかわいくて不安な気もちは、どこか
にとんでいってしまった。
はるき君、お兄ちゃんといっぱい遊ぼうね。

須賀川市立阿武隈小学校 五年 水野 友愛

私がもし しゅん間移動ができたなら
食べ物をもって
毛布をもって
西日本まで飛んで行く
でもそれはできないから 心の中で応えんする
「がんばれ、がんばれ」
ずっと応えんする

須賀川市立柏城小学校 三年 及川 柚月

心は天気みたいだな
ほめられるとポカポカ お日さま
いじわるされるとザーザー 大雨
こまっている子に声をかけられなかった時 どんより雨雲
みんなの心はどんな天気かな

須賀川市立柏城小学校 四年 阿部 苑子

手ってすごいな。
文字を書くこともできるしはしだって持てる。
わたしの手は生きている。
こまっている人に手をさしのべることもできる。
そして大すきな友達と手をつなぐこともできる。
つないだその手は、あたたかい。

鏡石町立第二小学校 四年 面川 陽莉

温かいふとんで眠るとき
みんなでごはんを
食べるとき
いっしょうけんめい
勉強するとき
私は幸せと感じます
世界中の子どもたちが
そうになったら
私の幸せはもうひとつ
ふえると思います

白河市立表郷小学校 一年 近藤 千流

おじいちゃん。
今日も星が
たくさんあるから
みえてるのかな、
ぼくのこと。

星になって
おうえんして
くれてるよって、
おかあさんいった。

明日もがんばるね。

相馬市立日立木小学校 一年 村上 琉大

ぼくは、しんさいをしらない。
しんさいのときぼくは、おかあさんのおなかのなかにいたから。
でも、しんさいのはなしをきいてかなしいきもちになった。
ぼくは、ふくしまにげんきにうまれたから、
これからも、げんきいっぱいがんばる。

相馬市立日立木小学校 二年 菊池 颯良

ぼくの じいじ
こわかった じいじが
びょうきに なった
長い間 入いんして
会えなくなって
とっても さびしい

じいじがたいいんして
いっぱい やせた
じいじを 思って
ばあばが もっと
ごはんを食べてねと
言ったよ

ぼくも じいじに
まけないように
いっぱい食べたよ
ぼくの手がみを見て
じいじが よろこんだ
こわかった じいじが
今はやさしくて大すき
早く元気になってね

助産師になりたい。

助産師は、ただ赤ちゃんを産むお手伝いをするだけではない。
お母さんの不安を取り除いたり、赤ちゃんの健康状態を管理し
たり、お母さんの相談にのったりする。

こんな大変な仕事、私にできるかな。いや、できないじ
ゃない、なるんだ。

助産師には、勉強だけじゃなれない。自分自身が健康で優しく
ないといけないのだ。

いわき市立郷ヶ丘小学校 六年 高木 純奈

福島市立福島第一中学校 二年 佐藤芙佑美

喜んだ顔

怒った顔

泣いた顔

笑った顔

どんな顔も生きてる証

共に喜ぶこと

正しくしかること

共に悲しむこと

共に笑うこと

いろんなことが愛の証

全ての人に 平等に

いのちがあります。

どう扱うかは

あなたの自由です。

ただ、

あなたのいのちは

あなただけのものではありません。

誰のいのちも

みんなのいのちです。

福島市立福島第一中学校 三年 長正明日翔

福島市立福島第一中学校 三年 武野 大亮

海に挟まれた道を行く。

海の音、風の音が静かにも力強く響く。

曇天の中、カモメが一羽、風を切り鳴きもせず飛んで行く。

絶望を乗り越え、輝く未来へ進む僕らのように。

須賀川市立第三中学校 三年 佐藤 悠雅

津波は、様々な物を私たち人間からうばっていきました。
家も、思い出も何もかも。
しかし、津波がうばえなかったものもあります。それは生きる
力でした。それにより私たちは、うばわれた物を取り返しまし
た。

一人一人の
家族が あったから
だから わたしは
一生懸命 生きるのです

西郷村立西郷第二中学校 一年 小野寺陽泉

いのち それは
先祖からの 見えない
バトン

家族 それは
一人一人にとって
欠けてはならないもの

今 わたしたちが
生きていられるのは
先祖からつないだ
バトンと

いわき市立藤間中学校 一年 藤原 梓咲

手をつなぐと、暖かい。
中学生にもなって。そう、母は言うけれど。
手をつなぐと、安心するんだ。
生きていること、尊い命がそこにあることを実感できるから。
並んだ影が、合わせて歩く歩幅が、
私に笑顔をくれるから。

福島県立白河旭高等学校 一年 関根 里沙

顔も知らない人の血が、私の中に流れている。そして私の命を繋いでいる。

その人のおかげで私は生きている。笑っている。泣いている。だから私もこの血を誰かのために役立てたい。

献血で助かる命を、助ける命を。



『いのちの詩・愛の詩』入選 受賞者

福島市立福島第一小学校

一年 藤原 千樹
二年 市下 恭護
二年 穴戸梨央菜
五年 渡邊 花菜
六年 菅野 輝
六年 阿曾 太一
六年 尾形 梁太

福島市立野田小学校

四年 佐藤 煌仁

福島大学附属小学校

二年 坂本 周作
二年 菅野 結衣
五年 嶋原 月那

郡山市立片平小学校

四年 大竹 留愛

郡山市立桃見台小学校

二年 樽川凜太郎
二年 本田 杏
二年 安田 拓未

郡山市立富田東小学校

四年 長田 奏志
五年 高野 優里
五年 高橋 悠太
六年 渡邊 善文

須賀川市立稲田小学校

五年 野地 桜綾
五年 橋本 和奏

須賀川市立小塩江小学校

一年 吉田 莉渚

須賀川市立阿武隈小学校

四年 吉田 和奏
六年 柳沼 拓弥
六年 青木音々雅
六年 橋本奈々未

須賀川市立柏城小学校

三年 石澤 佳歩
三年 菅野 美玖
三年 荒川 慶太
四年 伊藤 蒼史
五年 門馬 英汰

鏡石町立第一小学校

六年 穂積 由菜

鏡石町立第二小学校

一年 高林 詩凰
四年 田中 歩来

平田村立蓬田小学校

五年 鈴木 優花

白河市立表郷小学校

三年 大久保 奏
四年 渡邊 煌芽
四年 鈴木 心美
五年 近藤 那奈
五年 荒井 大翔

白河市立信夫第一小学校

一年 大戸 聖七

矢祭町立矢祭小学校

四年 鈴木 佑歩
六年 大垣めばえ
六年 菊池 陽向

三島町立三島小学校

五年 飯塚 楽人
五年 小松 紗佳

新地町立新地小学校

一年 齋藤 愛紗
一年 武澤 柑太
三年 高橋 寧音
六年 桑原 咲幸

相馬市立日立木小学校

二年 根本 杏里
四年 渡邊 友哉

双葉町立双葉南小学校

五年 齊藤 にご

南相馬市立小高中学校

二年 宮西 大輔

いわき市立草野小学校

五年 高崎ひなた

福島県立白河旭高等学校

一年 平野百々花
一年 鈴木 明梨

福島市立福島第一中学校

一年 佐久間まゆ

学校法人尚志学園尚志高等学校

二年 河野 心美

二年 富澤 果鈴

二年 庄司 寧々

三年 八屋 創太

三年 遠藤あゆみ

須賀川市立第三中学校

三年 青津 茅宙

玉川村立泉中学校

二年 安斎 夏未

三年 石井隆一郎

西郷村立西郷第二中学校

一年 近藤 華音

相馬市立向陽中学校

三年 佐藤 歩美



一〇〇文字提案

「わたしにできるボランティア」



「わたしにできる
ボランティア」

優秀賞

福島市立福島第一小学校

一年 山崎 史織

福島市立福島第三小学校

三年 佐藤 咲良

福島大学附属小学校

四年 吉岡 千尋

郡山市立桃見台小学校

二年 千葉 優奈

相馬市立日立木小学校

六年 山田 真寛

相馬市立向陽中学校

二年 羽根田 旬



「わたしにできるボランティア」優秀賞

福島市立福島第一小学校 一年 山崎 史織

わたしは、ペットボトルのキャップに
すむヤドカリのしゃしんをみて、かわい
そうだとおもいました。

わたしは、ごみはごみばこにすてるか
いえにもちかえります。

ヤドカリがカイのうちにすめるよう
に、ごみひろいをしようとおもいました。

福島市立福島第三小学校 三年 佐藤 咲良

わたしは二才からのばしたかみを
三十五センチ切ってきふしました。つや
つやなかみだね。と言われてうれしくな
りました。

病気でかみの毛がなくなった人の役に立
つといいなと思うので、またのばしてか
みをきふしたいです。

福島大学附属小学校 四年 吉岡 千尋

風でたおれているたくさんのかawaiiそ

うな自転車たち。私と友達には起こして

並べる力があります。少し時間はかかる

けれど大丈夫。たおれていたと持ち主は

気づかないけれど。

私の自転車もたおれていたら起こして

ね。

郡山市立桃見台小学校 二年 千葉 優奈

わたしのおばあちゃんは三十一回けん

けつをしています。あと二年でけんけつ

ができなくなるとさみしそうにいつてい

ます。

だから大きくなったらわたしが、おば

あちゃんからの「けんけつりレー」をし

ようと思います。

相馬市立日立木小学校 六年 山田 真寛

僕は、じいじいと一緒に花壇の手入れを
している

道路脇の花壇だ

車で通るたびに僕は見る

「きれいだね。」と言ってくれる人がいる

「えらいね。」と言ってくれる人がいる

そんなボランティアが僕は大好きだ

相馬市立向陽中学校 二年 羽根田 旬

小学生の頃、英語で書かれた手紙が学
校にたくさん届いた。読めなかったけど
今思うと世界中が被災した僕たちを応援
してくれていた。物をもらってもうれし
いけど僕は言葉で十分だ。

だから僕は言葉の力で応援したい。

「わたしにできる ボランティア」

佳作

福島市立福島第一小学校

二年 小峯孝太郎

二年 長谷部謙助

二年 丹治龍ノ佑

三年 横山 德音

四年 黒澤 正純

六年 曲山 雄翔

福島大学附属小学校

一年 星 悠花

郡山市立片平小学校

四年 鈴木 花穂

五年 池田 佑太

六年 櫻村茉莉亜

郡山市立桃見台小学校

二年 小林 由采

郡山市立富田東小学校

一年 大竹 佑季

二年 岡田有紀菜

三年 久保 陽

四年 佐藤 愛珠

四年 澤田 莉奈

郡山市立朝日が丘小学校

一年 長谷川愛稀

須賀川市立稲田小学校

六年 橋本 真佳

須賀川市立柏城小学校

五年 横田ひより

須賀川市立大森小学校

三年 太田璃莉花

鏡石町立第一小学校

五年 有馬弘太郎

白河市立表郷小学校

四年 本宮 桜香

五年 穂積 牙

六年 穂積 花帆

矢祭町立矢祭小学校

五年 吉岡 翼

喜多方市立堂島小学校

六年 佐々木菜未

新地町立駒ヶ嶺小学校

六年 稲荷田有貴

相馬市立日立木小学校

一年 大迫 凜藍

三年 谷津田莉緒

六年 佐藤 伶奈

双葉町立双葉北小学校

五年 齋藤 永輝

いわき市立郷ヶ丘小学校

五年 渡辺 れの

福島市立福島第一中学校

二年 川村 歩毅

二年 佐藤ひなた

二年 安齋 香子

三年 佐藤 莉愛

福島市立松陵中学校

三年 佐藤 愛理

三年 菅野なな美

須賀川市立第三中学校

三年 小林あかり

三年 中村 風翔

西郷村立西郷第二中学校

一年 吉田百桃果

三年 三田村奈保

相馬市立向陽中学校

一年 鈴木 魁斗

学校法人福島成蹊学園福島成蹊高等学校

一年 橘内 愛未

一年 仲島 芽衣

福島県立白河旭高等学校

三年 遠藤 莉央

福島県立平支援学校

二年 加藤 智子

『わたしにできるボランティア』佳作

福島市立福島第一小学校 二年 小峯孝太郎

ぼくは、ぼうさい教室へさんかしました。いつどこでさいがいにあうかわかりません。

自分のいのちが一ばん大じだけど、もしぼくのまわりでこまっている人がいたら、声をかけたりできることがあったら、行きたいです。

福島市立福島第一小学校 二年 丹治龍ノ佑

ぼくの大きいおばあちゃんは足がわるいです。しんだばあちゃんも足がわるかったです。

だから足のわるい人を見たら、お手つだいをしてあげたいとおもいます。バスやでん車でせきをゆずりたいです。

福島市立福島第一小学校 二年 長谷部謙助

ぼくは、大雨ひがいのニュースを見て、すぐにたすけに行きたいと思いました。

ただ、とおい場しよなので、たすけにいきませんでした。

ぼくにできることはないかと考え、おこづかいからぼ金をしました。

福島市立福島第一小学校 三年 横山 德音

ぼくは、ボランティアをしています。毎週火曜日、ほうしかつどうという、せいそうを行っています。外の草むしりとかあいさつうんどうもあります。

ほうしかつどうは、きれいにすると、心もきれいになります。これからもつづけたいです。

福島市立福島第一小学校 四年 黒澤 正純

すごいゆれがきた日、ぼくはまだ一才でした。だからなんにもおぼえてないけど、おねえちゃんがだっこしてくれた。みんなぼくをまもってくれた。

ありがとう。

今度はぼくがみんなをたすける人になりたい。

福島市立福島第一小学校 六年 曲山 雄翔

老人ホームに入所している曾祖母は、ぼくたちと話をすると笑顔になる。周りの人も笑顔になる。老人ホームで色々な人の話相手になることもボランティアだと思った。

今度立ち寄った時、曾祖母や他の人がもっと笑顔になれるようにしたい。

福島大学附属小学校 一年 星 悠花

うまれたところからのばしていたかみをきって、びょうきでかみのないこどもにきふをしました。

わたしのかみで、うれしいきもちになってくれるひとがいるといいな、とおもいます。

郡山市立片平小学校 四年 鈴木 花穂

私のおばあちゃんはボランティアをやっています。高齢者の方にごはんを作ってあげて届けてあげたり、お祭で、お手つだいしてあげたり。

私もいつかおばあちゃんみたく、ボランティアを自らやりたいと思いました。

郡山市立片平小学校 五年 池田 佑太

ぼくが、お店のエレベーターに乗っていて、おりようとした時に、車いすの人が乗ろうとしていました。ぼくは「開く」のボタンを押して、乗るのを待ちました。「ありがとう。」といわれて、とてもうれしかったです。

郡山市立桃見台小学校 二年 小林 由采

わたしにできるボランティアは、入学してきた一年生がこまっているときに、声をかけてたすけてあげることです。やさしい気持ちがないと、たすけてあげることができません。えがおであかるく、手をかしてあげたいです。

郡山市立片平小学校 六年 檜村茉莉亜

私ができるボランティアの一つは、目が不自由な方や、高齢者のつきそいをすることです。マナーの守れない人が、自転車を道路の点字ブロックの所に置くかもしれません。

私達が高齢者になっても、助け合っていける社会にしたいです。そのために、今自分ができる事をやろうと思いました。

郡山市立富田東小学校 一年 大竹 佑季

わたしは、かぞくと、サッカーのしあいをみたあとに、いつも、ごみひろいをやっています。せんしゅといっしょに、いつもごみひろいをするのがたのしいからです。

郡山市立富田東小学校 二年 岡田有紀菜

まいあさ学校へ行くとき、見まもりたいのみなさんにお世話になります。学校に行きたくないなと思うあさでも、元気なあいさつで、「よしがんばるぞ。」という気もちになります。わたしもみんなを元気にするあいさつをしたいです。

郡山市立富田東小学校 四年 佐藤 愛珠

わたしは、一年生からかみの毛をのばしています。病気でかみの毛がない人へのかつらに使うためです。長いかみの毛は毎日が大変です。でも、かつらがほしい人はたくさんいるそうです。今年きふでできる長さになりとてもうれしいです。

郡山市立富田東小学校 三年 久保 陽

手を使って自分の考えや気持ちをつたえる「手話」は、まほうの言葉。耳が聞こえない人に手話であいさつすると、え顔が返ってくる。

ぼくは、たくさん手話をおぼえて、え顔をいっぱいにしたい。

郡山市立富田東小学校 四年 澤田 莉奈

私にできる身近なお手伝いは、九十二才のひいばあちゃんと一緒におり紙をすること、ぬりえをすること、話しをする時は大きな声でゆっくりお話すること、そしておもしろいことをしてたくさん笑顔にすることです。

郡山市立朝日が丘小学校 一年 長谷川愛稀

へるぶまーくをしていますか。
めにはみえないしょうがい、こまっているひとがいます。
ぼくは、このへるぶまーくをみつけたら、こまっていること
はなんですかとこえをかけたかったです。

須賀川市立柏城小学校 五年 横田ひより

六月十八日に大阪でじしんがあった。私もしんさいをけいけ
んしてこわい思いをしたので大阪の人達も同じ思いをしたと思
う。
今はお金しかできないけど大人になったら困っている人に直
接あってお世話できる人になりたい。

須賀川市立稲田小学校 六年 橋本 真佳

みんなで花を植えた。マリーゴールドやパンジーは、地域を
明るくしてくれた。
これから、だれが水をあげるんだろう。
家の近くの花は、ぼくがやろうかな。

須賀川市立大森小学校 三年 太田璃莉花

レジのところに小さなはこがある。チャリン。ほんの少しし
か入れられないけど、それでもきつと役に立つ。
だれかを助けてあげられるかもしれないと思うから、わたし
はお金をしているよ。ずっと続けていくよ。

鏡石町立第一小学校 五年 有馬弘太郎

ぼくが経験したボランティアは、子どもやお年寄りと一緒に話したり、遊んだり、食事をしたことです。いろいろな人と出会いうれしかったです。

これからも、他の人に親切にやさしくしようと思います。

白河市立表郷小学校 四年 本宮 花香

先月ひいばあちゃんがなくなった。もっといっしょにいたかった。

いなくなってしまった今だからこそ、もう一人のひいばあちゃんとはたくさん時間をいっしょにすごす。

それがわたしにできる一番身近なボランティア。

白河市立表郷小学校 五年 穂積 冴

わたしは、ときどきお母さんと電車にのることがあります。お年よりの方に席をゆずったお母さんを見て、次は、わたしが席をゆずりたいと思いました。

わたしは、はずかしさにかてる、すこしの勇気をもちたいです。

白河市立表郷小学校 六年 穂積 花帆

私は、自分の住んでいる地区の子ども会で花植えをしました。植えた花々は、今では元気に育っています。

あせをたくさん流してみんなで植えた花々が元気に育って、がんばって良かったと、今もうれしい気持ちです。

矢祭町立矢祭小学校 五年 吉岡 翼

ぼくたちは、幸せにくらすことができている。
けれど、どこかの国で苦しんでいる人がいる。その人たちの
幸せのために、何ができるだろう。
ぼくの心をば金にこめよう。遠い場所から、応えんしている
よ。

新地町立駒ヶ嶺小学校 六年 稲荷田有貴

ぼくのできるボランティアは、とても小さな事。でも災害の
人を思いやってボランティアをすると、ただのボランティアで
はなくなる。
人を思いやる人と思いやらない人では、ありがたさの感じか
たがちがう。そういう人が世の中を作ると僕は信じている。

喜多方市立堂島小学校 六年 佐々木菜未

私は、おとしよりの交流の場をつくりたい。それは、おと
しよりと、若い世代の人がもっと仲よくなってほしいからだ。
将来、おとしよりの交流の場をつくり、どの世代も仲よく
できる福島をつくりたい。

相馬市立日立木小学校 一年 大迫 凜藍

まわりのひとにしていること おともだちにゆずること
これからしたいこと ちいさいこやおとしよりにやさしくする
こと
わたしにできることはなんだろう
かんがえることもボランティア

相馬市立日立木小学校 三年 谷津田莉緒

今年八年ぶりに海開きした海水浴場のゴミ拾いをした。びっくりしたのは、大きな石やカゴが落ちていた事だ。

「だれが捨てるんだ。」

「捨ててほしくない。」

きれいな砂浜で楽しく遊んでもらうために、ゴミ拾いをがんばった。

双葉町立双葉北小学校 五年 齋藤 永輝

ボランティアではなく人としての思いやりとして、高齢の方と、子供連れで大変な思いをしている方々に席をゆずり、会話をし、相手の気持ちによりそい生きていけるステキな人間になれる様に、心をみがきたいと思います。

相馬市立日立木小学校 六年 佐藤 伶奈

最近、災害が色々な所であって、テレビで見えていて本当に悲しくなる。私が今、出来る事は何か？出来る事はやって行きたい。タオル一枚でも必要な場所に。

だって、私も七年前そうやって助けてもらったのだから。

いわき市立郷ヶ丘小学校 五年 渡辺 れの

わたしは、エコキャップを集めています。八百個集めるとワクチン一回分になるし、世界中の困っている人の助けにもなります。

ボランティアは、お金では買えない「ありがとう」の言葉がもらえてとてもすてきです。

福島市立福島第一中学校 二年 川村 歩毅

僕は赤十字の募金があるときはいつもしている。アフリカなどのうえや病気で苦しむ人たちのいのちと健康を願って行っている。

募金は誰もができるボランティアだと思うので、これからもずっと続けていきたい。

福島市立福島第一中学校 二年 安齋 香子

私の地域では年に二、三回ほど公園の草むしりをしています。私は母と朝早くに公園に向かい、約三十分ほど草むしりをします。

終わった後の公園はとてもきれいで遊びたくなります。このボランティアを続けたいです。

福島市立福島第一中学校 二年 佐藤 ひなた

学校で行っている牛乳パック回収。普段ゴミになってしまうものでも、一枚一枚の積み重ねで何百人、何千人の命を救うことができるだろう。

一人でも多くの命が助かることを願い、今日も私は貢献していく。

福島市立福島第一中学校 三年 佐藤 莉愛

私の学校では、毎年、赤十字募金を行っています。私は、一人一人の協力で、世界で苦しんでいる人たちを救ってあげたいという気持ちで、取り組んでいます。

自分の協力で世界が変わる。そう思って、これからも取り組みます。

福島市立松陵中学校 三年 佐藤 愛理

私の学校では、JRC委員会を中心にペットボトルキャップを集めています。キャップ八百六十個で一人分のワクチンができ、一人の子どもの命を救えると知りました。

こんな私でも、人の大切な命を救うことができるので、たくさん集め、一人でも多く助けていきたいです。

須賀川市立第三中学校 三年 小林あかり

私はボランティアをやっていると、なぜか笑っている。私達は誰ひとり一人では行動できない。それを学校生活で学んでいる。自分の無力さを知っているから、私は助け合いが大好きだ。どんなにつらい事もみんなですぐ助け合えば、つらい事も楽しくなる。そう思う。

福島市立松陵中学校 三年 菅野なな美

「ボランティアをすると気持ち良い。」なんて言うけど、自分のためにもならないのにそんなわけがない……って思っていた。しかし私は実際にボランティアをして感じた。このあたたかくて清々しい気持ちは何だろう。

須賀川市立第三中学校 三年 中村 風翔

僕はごみを拾う。そして、ごみをゴミ箱に入れる。人の悪い心がつまっているごみを拾って、ゴミ箱に入れる。ごみ拾いは、地味な作業と周りからは見られるが、僕の中では、とても大きなボランティアだと思う。

西郷村立西郷第二中学校 一年 吉田百桃果

私は、小学生の時に、吹奏楽部で、太陽の国に行って演奏をしました。演奏をすると、みんな笑顔で、手拍子をしてくれました。嬉し涙を流してくれていました。とても嬉しかったです。ボランティアをすること、それは、みんなが幸せになる事だと、改めて実感しました。

相馬市立向陽中学校 一年 鈴木 魁斗

ぼくは、松川浦の植栽ボランティアに参加した。津波で流れてしまった防潮林を再生するためだ。一人の力で大きな事はできないが、小さな事ならできる。だから、ボランティアに積極的に参加して、できる事をしていきたい。

西郷村立西郷第二中学校 三年 三田村奈保

私は、小学生の時に、お年寄りの施設にボランティアに行った。

一生懸命作った折り紙をプレゼントした時の、おじいちゃんやおばあちゃんの喜ぶ顔が、本当に嬉しかった。

人を笑顔にできる人になりたいと、心から思った。

学校法人福島成蹊学園福島成蹊高等学校 一年 橘内 愛未

私が出る事。

歩道にゴミが落ちていた。私はそれを拾った。

座りたそうにしている子供がいた。私は席を譲った。

町を綺麗にするのも、子供のために動くのも全部、人の幸せ、人の未来のため。

私はみんなを笑顔にしたい。

学校法人福島成蹊学園福島成蹊高等学校 一年 仲島 芽衣

私が継続していること、それは駅前清掃。

地味に聞こえるかもしれない。でも、私は経験を重ね、自ら動くことを学んだ。学ぶことはたくさんある。

小さなことだと思うが、これからも胸を張って続けていきたい。

福島県立平支援助学校 二年 加藤 智子

私には、障がいという一つの特別なものがあります。

でも、ボランティア活動をしていて「ありがとう」と言われると、この活動をしていて良かった、私にだって人の役に立てるんだという自信が持てました。

福島県立白河旭高等学校 三年 遠藤 莉央

私は高校に入学してから、自分にできるボランティアに参加してきた。児童クラブ、デイサービスに行ったり献血に参加した。

共通して思ったことは、とてもやりがいを感じたことだ。これからも続けていきたい。

「わたしにできるボランティア」入選 受賞者

福島市立福島第一小学校

一年 加藤 瀧治

三年 角田偉知郎

四年 半沢 柚稀

郡山市立朝日が丘小学校

六年 小松亜沙子

須賀川市立稲田小学校

五年 岩崎江里子

六年 水野 夏季

福島市立福島第三小学校

二年 栗橋 心音

四年 岩松 夏希

須賀川市立小塩江小学校

二年 折笠 奨真

四年 相樂 陽愛

白河市立表郷小学校

四年 須藤 由暖

六年 根本 若奈

相馬市立日立木小学校

二年 阿部 日和

二年 佐藤 優凌

三年 佐原 隆仁

三年 佐藤 萌菜

五年 村上 春聖

六年 谷津田結生

郡山市立桃見台小学校

二年 松浦 巧樹

四年 佐山 愛衣

四年 多田日夏里

四年 國分 佑晟

六年 吉田 紗彩

六年 木立 葵

須賀川市立阿武隈小学校

五年 渡辺 凱斗

五年 橋本 明菜

六年 佐藤 拓海

六年 菅原 奏多

白河市立信夫第一小学校

一年 大橋 咲巴

四年 兼子 望愛

郡山市立富田東小学校

一年 鈴木 利空

一年 風岡 希

二年 大橋 陽汰

六年 石川 一平

須賀川市立柏城小学校

四年 近内 圭希

四年 荒川 隼人

五年 伊藤 遥菜

棚倉町立近津小学校

六年 鈴木 康太

矢祭町立矢祭小学校

六年 森本紗々加

新地町立新地小学校

一年 向坂綺来人

五年 菅野 哲平

六年 水戸 煌大

相馬市立磯部小学校

二年 伊藤 慶人

二年 土屋 葵

いわき市立郷ヶ丘小学校

五年 比佐 正翔
五年 阿部 頼登
五年 草野 友樹
五年 鯨岡 美生
六年 小鍛冶加奈
六年 原田 夏蓮
六年 鈴木 愛佳
六年 佐々木綾奈
六年 最上 理瑚

いわき市立草野小学校

五年 村上 茉香
五年 芦野 結衣
五年 本間 恵子
五年 瀧澤 蒼也

福島市立福島第一中学校

一年 片平つばさ
一年 三浦 詩音
一年 高橋 碧月
一年 小峯みのり
二年 佐久間亜紀
二年 倉野 結己
三年 中田 祐輔
三年 松本 匠基
三年 三瓶 英恭

福島市立松陵中学校

三年 熊坂 壮敏
三年 阿部帆乃華
三年 太田 陽斗

須賀川市立第三中学校

三年 佐藤 愛春

玉川村立泉中学校

二年 石森 陸

西郷村立西郷第二中学校

三年 鈴木 奏七

いわき市立藤間中学校

二年 山崎 希実
二年 渡邊 優依
三年 藁谷 千珠

福島県立白河旭高等学校

一年 矢島 晶
一年 駒坂すみれ
三年 熊田菜津美

学校法人尚志学園尚志高等学校

二年 小西 真緒

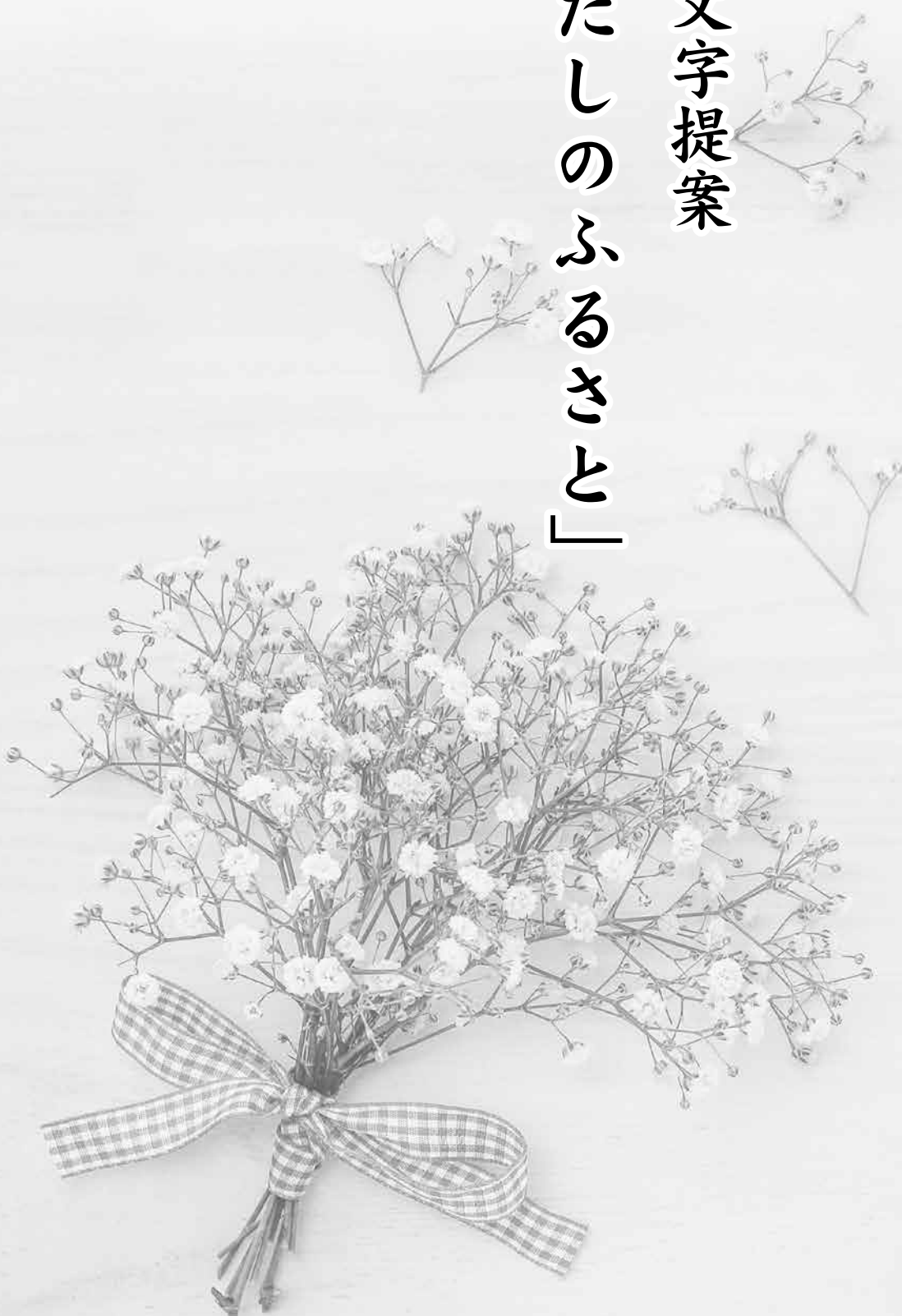
福島県立平支援学校

二年 西村 美咲
二年 大村 莉未



一〇〇文字提案

「わたしのふるさと」



「わたしの
ふるさと」

優秀賞

須賀川市立阿武隈小学校

四年 車田 乃映

六年 秋山 裕仁

福島市立福島第一中学校

二年 安藤 昂大

福島県立白河旭高等学校

一年 藤澤亜里紗



「わたしのふるさと」優秀賞

須賀川市立阿武隈小学校 四年 車田 乃映

春は、あか、白色とりどりのぼたん。

夏は、夜空に大きく、きれいにさく花火。

秋は、高く、強くもえ上がる松明あかし。

冬は、あたたかいわが家。

わたしは、そんなふるさどが、

とってもとっても大好きです。

須賀川市立阿武隈小学校 六年 秋山 裕仁

ぼくのふるさと福島は、原発事故でみ

んな泣いています。涙を流しています。

でも、涙という字には「戻る」という

漢字が、泣くという字には「立つ」とい

う漢字が入っています。みんな立ち上が

って。みんな笑顔に戻って…。そんなふ

うに思っています。

福島市立福島第一中学校 二年 安藤 昂大

福島は、生きています。木々や水、街では人々の笑い声が、泣き声が聞こえます。それら全ては、福島が生きている証です。息をしている証です。

福島が生きているのは、守られてきた証です。受け継ぐ必要がある証です。

福島県立白河旭高等学校 一年 藤澤亜里紗

私は福島が大好きです。辛い思いをしたからこそ強く、苦しい思いをしたからこそ優しく、悲しい思いをしたからこそ、これから楽しく生きていける。

そんな希望があふれる福島の未来がとても楽しみです。

「わたしの
ふるさと」

佳
作

福島市立福島第一小学校

二年 近澤 昭太

四年 片平一之介

五年 高橋咲良々

福島大学附属小学校

四年 相澤 千尋

伊達市立堰本小学校

一年 佐藤 大雅

郡山市立富田東小学校

六年 小林瑚乃羽

須賀川市立稲田小学校

五年 溝口 悠真

五年 星 羽月

五年 田村 大夢

六年 石井 大雅

須賀川市立小塩江小学校

二年 吉田 悠也

須賀川市立柏城小学校

四年 渡辺 琉衣

須賀川市立大森小学校

三年 関根 望桜

三年 須釜 怜海

平田村立蓬田小学校

五年 石塚 龍騎

棚倉町立近津小学校

六年 西牧 彩恵

新地町立新地小学校

六年 山本 咲妃

相馬市立磯部小学校

四年 佐藤 優介

相馬市立日立木小学校

二年 今村 清邦

四年 前川あきな

いわき市立草野小学校

六年 新妻 春花

福島市立福島第一中学校

三年 齋藤優之介

三年 佐藤 修吾

三年 鈴木 香奈

三年 伊藤 琴美

福島市立松陵中学校

三年 菅野 陽人

三年 安田 朋夏

須賀川市立第三中学校

三年 近藤 葵

西郷村立西郷第二中学校

二年 佐藤 壮真

相馬市立向陽中学校

三年 北川 美緒

南相馬市立小高中学校

二年 鈴木はるな

いわき市立藤間中学校

二年 大友 政輝

福島県立白河旭高等学校

一年 近藤紗也乃

三年 鈴木 萌恵

三年 澤田 花音

『わたしのふるさと』佳作

福島市立福島第一小学校 二年 近澤 昭太

ぼくは、ペットボトルにふくしまの水道水を入れます。そして、れいとうこに入れます。こおったペットボトルを出します。ぼくは、あつい夏に、このすこしとけたふくしまの水が、大好きです。今日もゴクゴクのみます。

福島市立福島第一小学校 五年 高橋咲良々

私のしょうらいの夢は、栄養士です。栄養士になって、福島の桃やお米、野菜を「安全でおいしく栄養がたっぷり入ってるよ。」と、他の県の人達に伝えたいです。それが、福島・日本・世界のために私がしたいことです。

福島市立福島第一小学校 四年 片平一之介

震災から七年…

ぼくのふるさと福島は、元気です。山も川も海も空気もきれいです。果物も野菜も米も魚もおいしいです。みんな温かくて、優しくて、大好きです。

そんな福島をみんなに知ってほしいです。

福島大学附属小学校 四年 相澤 千尋

福島はまだ、一部がきけんなじょうたいだ。

ほうしや性物質という怖いモンスターが、一部をあらしているから。

でも、ふっこうや応援があるから大丈夫。

だから、みんな団けつして、また福がいつぱいの福島にするんだ。

伊達市立堰本小学校 一年 佐藤 大雅

そうまのうみ

そうまのうみは、ことし、しんさいごはじめてうみびらきをした。ぼくはうみであそんだ。とてもきもちよくて、かいすいはしよっぱかった。たのしかった。
みんながそうまにあつまるといいな。

須賀川市立稲田小学校 五年 溝口 悠真

福島は元気だ。東日本大震災を乗りこえ、私達は、成長している。きれいな水、すんだ空気、おいしい農作物。これらを、何年後もきれいなままで未来の人々へ残したい。

私達に出来る事、日々の生活で見直しながら生きたい。

郡山市立富田東小学校 六年 小林瑚乃羽

私が思う福島のためにできる事。それは「生きる」という事。未来の日本をせおっている私達は、たくさん生きて福島を復興させる。

福島に、前のような明るさと笑顔を取りもどすために。つらくても生きる。それができる事。

須賀川市立稲田小学校 五年 星 羽月

私のふるさとは、きれいな緑のジュータンのような田んぼが広がるところです。春の田植えには、小さな苗が力強い伸び、夏には風がふくとカサカサいい音がします。秋には稲かりのいいにおい。一番好きです。

須賀川市立稲田小学校 五年 田村 大夢

山、川、たんぼ、畑、鳥やせみの鳴き声。
花が咲き、まわりは自然でいっぱいだ。

おじいちゃんが作った野菜を食べ元気もりもり遊んでる。

家族が大好き

学校大好き

須賀川大好き

須賀川市立小塩江小学校 二年 吉田 悠也

ぼくの小学校では、うんどう会でぼんおどりをおどる。ちいきのおじいちゃん、おばあちゃん、先生、みんないっしょにおどる。音に合わせて手をたたき、いっしょに足ぶみする。みんなえがおになる。

小しおえ、さいこう。

須賀川市立稲田小学校 六年 石井 大雅

福島は、七年前よりとても強くなった。協力し合い強くなった。福島は負けない。何があっても。どんな災害がおこっても、福島はあきらめずにまたたち向かう。

七年前以上の幸せを、福島みんなが、とりもどせるまで。

須賀川市立柏城小学校 四年 渡辺 琉衣

①ぼくの生まれた町、

②ふくしま県。

③のう業もさかんな、

④す賀川市滑川町。

⑤きゅうりがおいしい。

⑥なつは虫とりが出きる。

⑦ふゆは雪がっせん。

⑧ふるさとっていいな。

⑨何⑩さいになっても、

ずっとここにいたいな。

須賀川市立大森小学校 三年 関根 望桜

福島は大へんな所なのかな。福島に住んでいるわたしたちは、ちよつとかわいそうなのかな。

でもね。水も空気もいいしいよ。ときどき顔を見せにくるタヌキやキジも元気だよ。わたしたちだって、すつごく元気だよ。

平田村立蓬田小学校 五年 石塚 龍騎

ふるさとは福島
育ちも福島

だから福島が好き
みんなが好きな福島
みんなが住む福島
そんな福島がいい
来てみれば分かる
味わえば分かる
福島のよいところ
僕は福島を伝えたい

須賀川市立大森小学校 三年 須釜 怜海

東日本大しんさいがあった時、わたしはまだ小さかった。お母さんがギュッとわたしをかかえてにげたんだって言っていた。それもおぼえていない。

でも、お母さんがわたしのことを大事に思っていてくれていい。そのことだけは、ちゃんとおぼえているよ。

棚倉町立近津小学校 六年 西牧 彩恵

「原発事故」は、もういやだ。福島のおいしい野菜も果物、そしてお魚も。「放射線」の一言で広まってしまった。悲しかった。

でも、福島は負けない。強い「夢」や「希望」があるからね。幸せを運ぶ、福島で。

新地町立新地小学校 六年 山本 咲妃

私の町には都会に比べて何もないと思っていたが、今はそう
思わない。それは鹿狼山の頂上からの景色を見たからだ。頂上
からは海が見えた。とてもきれいだった。
物に溢れてないからこそ見れた景色に感動した。

相馬市立日立木小学校 二年 今村 清邦

まいあさ、学校に行く時、おじいさんと通るいつものみちの
田んぼの小さな川に、どじょう、ザリガニ、さわがにがいたよ。
さわがにもいたんだね。さわがにがいるなんて水がきれいな
しょうだよ。

相馬市立磯部小学校 四年 佐藤 優介

今年も防災林植樹をしました。一年生から六年生までみんな
で協力をして松の木を植えました。
この木のようにぼくも何十年間後には、ふるさとを守るよ
うな人になりたいです。

相馬市立日立木小学校 四年 前川 あきな

わたしのふるさと相馬。美しい海、おいしい魚やのりが自ま
んです。七年前の東日本大しんさいで、この海がかい物の様に
へん身して、街や人をおそったなんて信じられない！
美しい海が、いつまでもつづきますように。

いわき市立草野小学校 六年 新妻 春花

私は福島が大好き。私のふるさとは自然が豊かだ。春は桜が満開になる。夏は田にカエルが泳ぐ。秋は葉が色づき田にイナゴが飛びはねる。冬は雪が降ると辺りは静かになる。震災で福島は嫌われても私はここが大好きだ。

福島市立福島第一中学校 三年 佐藤 修吾

命の尊さを知った震災。一瞬で、通常を奪い去る震災。僕は思う。震災は嫌いだけれど、絆を深めてくれる。と。福島は、絆と優しさで満ち溢れている。そんな福島が僕は大好きだ。

福島市立福島第一中学校 三年 齋藤優之介

福あふれる島。それが福島。けれど今は違う。放射能をばらまく不幸な島になってしまった。周りからうとまれ本当に島になつてしまいかもしれない。

そこに橋をかけること。それが私のふるさとへの、恩返し。

福島市立福島第一中学校 三年 鈴木 香奈

「ただいま」と帰れる場所。
「おかえり」と言える場所。
あたりまえが幸せと知った。
今いる場所がふるさとじゃなくても、私のふるさは変わらない。

福島市立福島第一中学校 三年 伊藤 琴美

福島の好きどころ、自然豊かで、空気もきれいなところ。
春の花見山、夏の花火、秋の紅葉、冬のスキー場、お祭りも好き。
一番好きなのは、家族と一緒にいられること。
私はずっと福島に住みたい。

福島市立松陵中学校 三年 安田 朋夏

福島は福の島です
かわいそうじゃありません
福島は福の島です
危険じゃありません
福島は福の島です
みんなが笑顔です
福島は福の島です
絶対に負けません

福島市立松陵中学校 三年 菅野 陽人

僕のふるさは強くなりました。東日本大震災によって亡くなった人、無くなった物もたくさんあります。
でも、失っただけでなく、地域の絆や勇気が手に入りました。
そのふるさに僕は感謝しか言えません。

須賀川市立第三中学校 三年 近藤 葵

福島は元気です。東日本大震災から約七年。今も苦しんでいる人がいるという事を忘れないでください。
しかし、いつまでもいつまでも被災者と呼ぶのはやめてください。
もう次に向かって進んでいこうと決めたから。

西郷村立西郷第二中学校 二年 佐藤 壮真

福島は放射能で汚れている。僕はここに来る前はそう思っていた。

しかし、ここにやってきて、印象が変わった。

福島のあたたかい人たち、豊かな自然、おいしいごはん。悪いところなんて何ひとつなかった。うれしかった。

相馬市立向陽中学校 三年 北川 美緒

福島の空は真っ青です。福島の海も真っ青です。

でもその日、福島の青に一瞬で灰色が混ざりました。そしてその分、温かさが増えました。県外から海外からたくさんの方が助けてくれました。

ありがとうございます。

南相馬市立小高中学校 二年 鈴木はるな

東日本大震災で私達はとてもつらい日々を送りました。

そんな私を励まし、勇気づけてくれたのは桜の花でした。桜の花の明るさといつまでも倒れずに立っている力強い幹と根に私は力づけられました。

そんな桜がたくさん咲いている福島が大好きです。

いわき市立藤間中学校 二年 大友 政輝

当たり前の日常が、いかに幸せなことなのか、私はあの震災で学んだ。

校舎の花壇で、太陽に向かって力いっぱい咲いている向日葵のように、いわきも未来に向かって元気に前に進んでいる。

私も負けていけない。

福島県立白河旭高等学校 一年 近藤紗也乃

私の住む、福島県。

自然豊かな、福島県。

笑顔に溢れた、福島県。

皆で頑張れる、福島県。

震災にも負けず、立ち上げれる、福島県。

絶対諦めない、福島県。

全てが温かい、福島県。

私の大好きなふるさは、そんな福島県。

福島県立白河旭高等学校 三年 鈴木 萌恵

ずっと都会に憧れて都会に住みたいと思っていた。実際、都会で生活してみると、ふと思いつくのは、福島にいたときのこと、家族のこと、食べ物のこと、そして、人と人との繋がりと、やっぱり福島は温かい。

福島県立白河旭高等学校 三年 澤田 花音

〴〵危ない地域だ。私はあなたが言っている言葉を信じない〴〵
アイルランドへ行き福島の現状を伝えた際に言われた。福島〴〵
原発？福島〴〵かわいそう？それは違う。

私達は福島は今を世界へ発信しなければ！笑顔で元気だと。

「わたしのふるさと」入選 受賞者

福島市立福島第一小学校

一年 海野 弥生

一年 伊藤 愛

六年 齋藤 果歩

須賀川市立小塩江小学校

二年 佐久間なつ希

二年 佐々木杏菜

会津美里町立高田小学校

四年 石黒ひかり

福島市立福島第一中学校

一年 齋藤 弥々

三年 阿部 晴斗

三年 丹治 和希

三年 菊池 璃穂

三年 鈴木 楓稀

福島市立福島第三小学校

四年 和光工リカ

四年 橋本 諒

須賀川市立阿武隈小学校

四年 熊耳 玲那

四年 佐々木 驍

四年 樽井 愛海

五年 渡邊 沙耶

郡山市立片平小学校

五年 伊東 優希

新地町立新地小学校

六年 若月 美佑

六年 渡部 隼

六年 大堀 拓実

福島市立松陵中学校

三年 佐々木 芹

郡山市立桃見台小学校

二年 鳴海 朱里

須賀川市立柏城小学校

六年 長島 奏太

六年 保志 向葵

郡山市立富田東小学校

一年 栗原 柚葉

二年 後藤 勇誠

三年 鈴木 悠心

三年 國分 琉

相馬市立日立木小学校

二年 阿部 恵佑

四年 臺内 李紗

六年 鈴木 聖人

西郷村立西郷第二中学校

三年 石井 響太

南相馬市立原町第一中学校

二年 境原 正晴

須賀川市立稲田小学校

五年 岩崎江里子

白河市立表郷小学校

三年 鈴木 心月

いわき市立草野小学校

五年 加村想乃香

南相馬市立小高中学校

二年 新館 樹

二年 佐藤 和

いわき市立藤間中学校

三年 遠藤 和哉

三年 大和田紗希

福島県立本宮高等学校

一年 増子 未咲

福島県立白河旭高等学校

一年 井上 日菜

一年 高橋 音葉

一年 箭内 晴夏

一年 吉田 絢音

一年 山田 汰一

三年 丹野 咲

学校法人尚志学園尚志高等学校

三年 小林 優佳



一〇〇文字提案

「わたしが感動したことばやできごと」



「わたしが感動した
ことばやできごと」

優秀賞

郡山市立富田東小学校

三年 小林 世愛

福島市立福島第一中学校

三年 穴戸 一樹

福島県立白河旭高等学校

一年 松本 優輝



『わたしが感動したことばやできごと』優秀賞

郡山市立富田東小学校 三年 小林 世愛

私が学校で友だちをきずつけてしまっ

た日、お母さんが言いました。

「あなたの名前には、世界中から愛され

てほしい。けれど、自分も人を愛してほ

しいと思ってつけた。」

私は、その言葉を知り、なみだがでま

した。

福島市立福島第一中学校 三年 穴戸 一樹

努力は無限

試合で負けた僕達の夏は終わった

涙をがまんした

勝ちに不思議な勝ちあれど負けに不思

議な負けなどない

努力は誰にでもできる

他人よりどれだけ努力してきたのかが

問われる

努力は無限――

だから僕は再び努力する

福島県立白河旭高等学校 一年 松本 優輝

数年ぶりの田植え、

祖父母の手伝い。

雄々しい那須連峰を背景に、

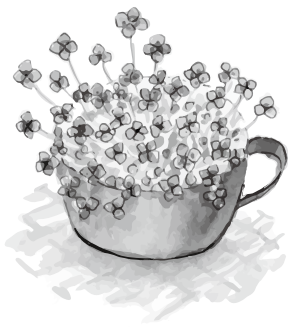
「孫のために作るコメほど、作りたいも

のなど無い。」と笑う祖父の背中が、

いつもより大きく見えた。

私は、

その背中をいつまでも追い続けるだろう。



「わたしが感動した
ことばやできごと」

佳
作

福島市立福島第一小学校

一年 大竹 和武
四年 坂野 奏太

郡山市立桃見台小学校

四年 佐藤 唯那
四年 渡邊あまね

郡山市立富田東小学校

六年 渡邊 柚奈

須賀川市立阿武隈小学校

二年 関根 麻依
四年 葛西 咲希
五年 松本 宙

須賀川市立柏城小学校

三年 佐藤 麻由
五年 永山 栞

須賀川市立大森小学校

三年 笠原 美来

鏡石町立第一小学校

一年 渡部 結
二年 大河原琉徠

白河市立信夫第一小学校

六年 佐藤 江菜

新地町立新地小学校

三年 佐藤 舜

相馬市立磯部小学校

一年 門馬優紀菜

福島市立福島第一中学校

一年 菅野 純平
二年 松原 百花
二年 佐藤 優芽

福島市立松陵中学校

三年 河野 莉緒

須賀川市立第三中学校

三年 安藤 遥南

玉川村立泉中学校

三年 佐藤未奈美

福島県立白河旭高等学校

一年 和知 彩菜
一年 真船 衣鈴
一年 有賀 陽莉

学校法人山崎学園福島県磐城第一高等学校

二年 高坂 伊織

『わたしが感動したことばやできごと』佳作

福島市立福島第一小学校 一年 大竹 和武

ぼくは、ゆずるといふことが好きです。
ドッチボールのときに、じゅんばんやボールをゆずってくれて、うれしかったです。

ぼくも、おともだちとゲームをしたとき、じゅんばんをゆずりました。

けんかになりませんでした。

ゆずることは、がまんをすることだけど、みんなえがおになるから、ゆずることは、たいせつです。

福島市立福島第一小学校 四年 坂野 奏太

平成三十年四月四日に妹が誕生した。病院で初めて妹を抱っこした時、とても小さく温かくて感動した。

ぼくとは十才年がはなれている。ぼくは小さい妹を全力で守ると決めた。

この日から、ぼくはお兄ちゃんになった。

郡山市立桃見台小学校 四年 佐藤 唯那

お兄ちゃんが家を出てりように入った。自分のゆめをかなえるためだ。家を出て行くのはさびしかったけれど、ゆめに向かって進んだのはすごいことだ。

私も、お兄ちゃんみたいに、ゆめに向かって進めるようになりたい。

郡山市立桃見台小学校 四年 渡邊あまね

わたしにはおじいちゃんがいる。かっていたねこが死んだ時に一番泣いていた。

それから三日ぐらいたったある日、おじいちゃんは、初めてパソコンを使ってねこに手紙を書いてぶつだんに置いた。

天国にとどくといいな。

郡山市立富田東小学校 六年 渡邊 柚奈

私が感動したできごとは、薬局屋での、できごとです。
六十才ぐらいのおばあちゃんが、薬だなにおもいきりぶつか
ってしまって全とおちたけれど、店主が「お氣になさらずに。
ここは、薬局屋なのであなたの悪い所を直す場所ですよ。」
その人は、足こしが弱かったので感動。

須賀川市立阿武隈小学校 四年 葛西 咲希

授業さんかんがあった。
ふだんはむずかしくて手を挙げられない私でしたが、がんば
って発表できた。きんちょうもあったけど、発表の後はとても
気持ちがよくて、自分が少し変わったような気がした。とても
うれしかった。

須賀川市立阿武隈小学校 二年 関根 麻依

「まいは、かわいいね。大すきだよ。」
とおかあさんにいわれると、こころがくすぐったくなる。こえ
には出さないけど、わたしもこころの中で
「おかあさん、大すきだよ。」
ってさけんでいる。

須賀川市立阿武隈小学校 五年 松本 宙

「あいさつは、早い者勝ち」
これはぼくが、一年生の時のたん任の先生に言われた言葉で
す。あいさつは、心と心をつなぐ大切なもの。ぼくは、ずっと
負けなします。
あいさつは、自分の心を開いて相手に近づく第一歩です。

須賀川市立柏城小学校 三年 佐藤 麻由

りよう手で土をほるじゃがいもほりが大すきです。大きいのが顔を出すと、わたしもにつこり。あせをかいたあと山からふく風が気持ちいい。
ばあちゃんのはたけはたからばこだ。いっぱい食べて大きくなるう。

須賀川市立柏城小学校 五年 永山 栞

「まちがい宝物」と先生は言った。まちがえるとくやしい、かなしい、やめたくなる。
でも、そこから宝さがしが始まる。ふんばってがんばると私の中にキラキラ宝がたまっていく。
これからもいっぱいさがすよ宝物。

須賀川市立大森小学校 三年 笠原 美来

地いきのおばあちゃんたちと、古い校しゃの花だんにベコニアのなえを植えた。毎朝そこを通過して学校へ行く。雨にうたれても元気に大きく育っていくベコニア。
おばあちゃんたちの「がんばれ。」が聞こえてきたよ。

鏡石町立第一小学校 一年 渡部 結

わたしにはにがてなことがあります。それはどもってしてしまうことです。でも、ともだちが、「わたしもうまくはなせないときがあるよ、だいじょうぶだよ。」と、はなしてくれました。わたしのころがあなたかくなりました。
わたしもみんなにころのやさしいことばをプレゼントしたいです。

鏡石町立第一小学校 二年 大河原琉徠

かえりみち、きみどり色のジャンパーをきたおじいちゃんと
おばあちゃんがいつもいます。

「おかえり」と言ってくれます。

「ただいま」と言うとニコニコえがおになります。
なんだかかぞくみたいだなあとおもいました。

新地町立新地小学校 三年 佐藤 舜

ぼくが感動した言葉は、「全ての食材に感しやを込めていた
できます。」

その言葉を聞いてぼくは、きれいな食べ物も必ず一口は食べ
るようにしています。

少しずつきれいから好きにかわってきました。

白河市立信夫第一小学校 六年 佐藤 江菜

「あなたは、あなたであればいい。」これはマザー・テレサの
言葉で、私が感動した言葉です。他人に合わせてばかりで自分
の考えを無駄にしていた私の心に、深く響きました。

この言葉を胸に、日々過ごしていきたいです。

相馬市立磯部小学校 一年 門馬優紀菜

「へたくそ。」

「きらい。」

こころがちくちくすることば。

「じょうずだね。」

「それ、いいね。」

こころがあたたかくなるふわふわことば。

わたしは、ふわふわことばをいいたいな。

福島市立福島第一中学校 一年 菅野 純平

私が一年生のとき、学童でゴミを捨てると、先生がほめてくれた。「当たり前だよ。」というと、先生が「でも、当たり前の方ができるとすごいことだよ。」といった。

その言葉で当たり前がしっかりできる人になりたいと思った。

福島市立福島第一中学校 二年 佐藤 優芽

「一番大事なものは目には見えない。」

星の王子様に書かれていた言葉です。考えれば考えるほど、深い言葉だと思います。でも、答えは、人それぞれ違うかもしれません。私は、心だと思います。あなたは何だと思いますか？

福島市立福島第一中学校 二年 松原 百花

「頑張れ」より

「頑張ろう」の方が

元気がでる

辛い時

「頑張ろう」と言われると頑張れる

言葉は人の気持ちを動かす

言葉って大切だね

福島市立松陵中学校 三年 河野 莉緒

目の前を塞いでいるのは壁じゃなくて扉なんだ。この言葉は、私の大好きな歌の歌詞の一部です。この言葉に、私は何度も背中を押されました。壁を乗り越えるのではなく、扉を開けて前に進めるように、頑張りたいと思います。

須賀川市立第三中学校 三年 安藤 遥南

私は母の言葉で忘れられないのが、「お母さんは、あなたたちを産んだ痛みの分、あなたたちを愛しているんだよ。」という言葉だ。

この言葉があると、人生を思いっきり生きようという想いが、心の底から溢れてくる。

玉川村立泉中学校 三年 佐藤未奈美

「諦めないで。」

と母は言う。諦めたならば、一生何も出来ないかもしれないと思う。

今日も私は諦めないで自分の出来ることをする。

すると母は、

「できるじゃない。」

と褒める。

私はそれが好きで今日も頑張る。

福島県立白河旭高等学校 一年 和知 彩葉

「おはよう。」から始まる一日。

「今日も暑いね。」「ほんと暑いね。」

授業の間のちょっとした会話。

暑い中、仲間と一緒に汗を流して練習。「また明日。」で終わる一日。

あたりまえの毎日がいつの間にか私の宝物となる。

福島県立白河旭高等学校 一年 真船 衣鈴

私が自分の生き方を見直すきっかけになった言葉は、「君が何気なく過した一日は、昨日亡くなった人があれほど求めた一日」です。

なんとなく一日を過すのではなく、一日一日を大切に生きようと強く思いました。

福島県立白河旭高等学校 一年 有賀 陽莉

「周りの目を気にしてたら何も出来ない。」とおばあちゃんは言います。

おばあちゃんは、もう目が見えないけど、本当に大切なものをいつも見つめている。

私もおばあちゃんのように、大切なものを見つめていきたい。

学校法人山崎学園福島県磐城第一高等学校 二年 高坂 伊織

以前、災害復興団地で交流会を行った時、参加してくださいましたおばあちゃんに、「日の当たらないマンション暮らしで気持ちが悪くなっていた。来てくれてありがとう。」と言われ、私でも誰かの力になれると感じ、うれしかった。



「わたしが感動したことばやできごと」入選 受賞者

福島市立福島第一小学校

四年 赤間 玄

福島市立福島第三小学校

二年 氏家 正虎

郡山市立富田東小学校

二年 鈴木 花音

三年 佐藤 俐宥

三年 石森 丈時

三年 大河内心緒

四年 芳賀 来星

五年 白石 大登

六年 五十嵐はな

六年 安田 颯汰

六年 大河内心響

須賀川市立稲田小学校

六年 大賀 彩姫

須賀川市立阿武隈小学校

二年 福田陽真里

二年 佐藤 夢依

五年 石澤 果怜

六年 柳沼凜太郎

六年 安田 柚妃

六年 穂積 翼

六年 松本 修也

須賀川市立柏城小学校

三年 遠藤 凜愛

六年 薄井 香花

須賀川市立大森小学校

三年 村越 瑛太

白河市立表郷小学校

四年 大川原寛太

白河市立信夫第一小学校

三年 渡辺 綾斗

棚倉町立近津小学校

六年 佐藤 獅琉

矢祭町立矢祭小学校

五年 伊藤 文菜

新地町立新地小学校

一年 山田 眺希

いわき市立郷ヶ丘小学校

六年 松本 珠夏

いわき市立草野小学校

五年 鵜沼 遥花

福島市立福島第一中学校

一年 山田 雪華

二年 高野 美智

二年 宮川 笑

二年 及川 優奈

二年 齋藤 美空

三年 柳澤 乃愛

三年 阿部 南星

三年 安藤 佳穂

須賀川市立第三中学校

三年 柏倉 嘉乃

三年 曾我 瑠唯

三年 石下 奈々

玉川村立泉中学校

二年 遠藤 愛蘭

二年 関根 かほ

二年 萩野 翔太

西郷村立西郷第一中学校

一年 藤澤工リ力

一年 赤坂 希美

福島県立白河旭高等学校

一年 小針 千首

一年 深澤 拓未

一年 小野真由佳

一年 鈴木 詩織

一年 竹内 乙葉

一年 菊池 奏穂

一年 三村 優奈

一年 野崎 菜乃

三年 小島 梨奈

三年 吉田 晴夏

学校法人尚志学園尚志高等学校

二年 遠藤 さち



作品応募校

鏡石町立第一小学校	鏡石町立第二小学校	福島大学附属中学校
須賀川市立大森小学校	平田村立蓬田小学校	須賀川市立第三中学校
須賀川市立柏城小学校	小野町立浮金小学校	玉川村立泉中学校
須賀川市立阿武隈小学校	白河市立表郷小学校	白河市立白河第二中学校
須賀川市立小塩江小学校	白河市立信夫第一小学校	西郷村立西郷第二中学校
須賀川市立福島第三小学校	棚倉町立近津小学校	相馬市立向陽中学校
福島大学附属小学校	矢祭町立矢祭小学校	南相馬市立原町第一中学校
伊達市立堰本小学校	喜多方市立堂島小学校	南相馬市立小高中学校
郡山市立片平小学校	会津美里町立高田小学校	いわき市立藤間中学校
郡山市立桃見台小学校	三島町立三島小学校	福島県立本宮高等学校
郡山市立富田東小学校	新地町立新地小学校	学校法人福島成蹊学園福島成蹊高等学校
郡山市立富田西小学校	新地町立駒ヶ嶺小学校	学校法人松韻学園福島高等学校
郡山市立朝日が丘小学校	相馬市立磯部小学校	福島県立白河旭高等学校
須賀川市立西袋第二小学校	相馬市立日立木小学校	学校法人尚志学園尚志高等学校
須賀川市立稲田小学校	双葉町立双葉南小学校	学校法人山崎学園福島県磐城第一高等学校
須賀川市立立小塩江小学校	双葉町立双葉北小学校	福島県立平平支援学校
須賀川市立阿武隈小学校	いわき市立郷ヶ丘小学校	
須賀川市立大森小学校	いわき市立草野小学校	
鏡石町立第一小学校	福島市立福島第一中学校	
	福島市立松陵中学校	

作品審査を終えて

今年も、子どもたちの「やさしさ、あたたかさ、思いやり」の心を大切にした作品や「ひと・もの・こと」との出会いから自分なりに考え、行動に移していく、多くの作品に触れることができました。

十三回目となる今回、『気づき』について考えてみたいと思います。

まず、優秀作品に選ばれた白河第二中学校一年ルモイン マノンさんの、書き出しが「僕の希望は生きること」という作品（作品集九頁）を一読してください。内容の趣旨は、赤十字募金を広報したメッセージの一つ、ミャンマーの少年の文章に衝撃を受けたということです。

将来、成し遂げたいと望むことや、良いことを期待する気持ちや願いを『希望』といいますが、希望を叶えるために努力したり、祈ったりします。ミャンマーに住む少年の希望は生きること、生きること努力したり、祈ったりする。そういう少年がいることに作者マノンさんは、衝撃を受けたのです。

「生きることだけが希望だなんて」

「生きingことを希望と呼ぶなんて」と叫んでいます。現在の私たちの生活の中では想像もできない、生きることの苛酷な状況の中で少年は暮らしているのだろうか、思い巡らせているのです。その上で、マノンさんは、ミャンマーの少年について温かい目で想像力を働かせたに違いありません。

更に、「気づき」は自分に向かっています。生きること真剣に向き合っていなかった自分がいたのではないかと作者はミャンマーの少年から学んでいます。それは、自分のおかれた環境に感謝し、世界に目を向けなければならないと気づいているはずです。

もし、マノンさんが何の疑問も抱かず見過ごしていたら、作品は生まれなかったことでしょう。

皆さんは、どんな感想を持ちましたか。青少年赤十字の態度目標である『気づき・考え・実行する』その気づきについて考えてみました。青少年赤十字活動を実践されている皆さんの作品を読んでいると、いいところに気づいているなあと感心する明るい作品も今回多くみられます。とても嬉しいことです。

それでは次に、テーマごとに感想を述べます。

《いのちの詩・愛の詩》

自分を取り巻く「ひと・もの・こと」とのつながりを深める

中から「いのち」や「愛」への具体的な思いを綴った作品を見ることができました。自分の心と対話している作品に共感します。

〈わたしにできるボランティア〉

実際に汗を流し、人との関わりの中から、ボランティアの心をつかみ取っていく作品が見られました。ボランティア・サービスの心が広がっていることは嬉しいことです。

〈わたしのふるさと〉

東日本大震災から七年。復興と創生が進むわがふるさと『福島』を、全国・世界に発信したいという思いが詰まった作品を見ることができ、たのしく感じます。

〈わたしが感動したことばやできごと〉

日常生活の中から生まれた感動や言葉を綴った作品や、困難を乗り越えて歩んでいる姿に感動している作品などをみることができました。『夢』や『希望』を持ち、精一杯努力をしようとする姿に共感します。

最後に、指導された先生方に感謝とお願いを申し添えます。

一 よりよい作品をめざして

読み取りにくい表現になっていないか、文章の続き具合はどうかや表現がたらないところはないか。読み手を意識して

わかりやすく、読み手の心を引きつける書き出しの工夫などさらにお願ひします。さらには、書き上げた作品を朗読してみることをお勧めします。手直しできる箇所気づくことがあります。

二 作品の応募数・応募校を増やしたい

この「詩・一〇〇文字提案」は、自らの思いを「書く」活動を通して、これからの生活を前向きに考え、夢や希望をふくらませるとともに、青少年赤十字活動の在り方を考えることができる良い機会でもあります。

三 「作品集」の活用を図りたい

わずか一〇〇文字の中に、きらっと光を放つ言葉を紡ぐ作品が掲載されています。本気で物事を見つめ、感じ、考えた作品の数々を是非活用ください。

平成三十年十一月 二次審査会にて

審査委員長 藤田 伸朔

年度別応募状況

年 度	応 募 校 数				応 募 作 品 数			
	小学校	中学校	高等学校	合 計	小学校	中学校	高等学校	合 計
平成18年度	29	10	1	40	951	385	25	1,361
平成19年度	32	6	4	42	1,749	211	115	2,075
平成20年度	29	2	2	33	1,683	268	45	1,996
平成21年度	24	2	4	30	1,401	159	64	1,624
平成22年度	42	7	2	51	2,859	757	24	3,640
平成23年度	35	7	1	43	3,325	912	4	4,241
平成24年度	47	11	18	76	3,666	735	338	4,739
平成25年度	60	14	20	94	5,602	1,048	889	7,539
平成26年度	48	6	12	66	5,175	1,018	1,027	7,220
平成27年度	45	12	13	70	3,992	1,373	76	5,441
平成28年度	44	11	9	64	4,847	1,433	405	6,685
平成29年度	43	12	9	64	3,542	1,048	477	5,067
平成30年度	35	11	7	53	3,043	1,047	397	4,487

平成30年度 テーマ別応募作品数

	小学校	中学校	高等学校	合 計
いのちの詩・愛の詩	748	176	45	969
わたしにできるボランティア	1,075	349	101	1,525
わたしのふるさと	667	282	100	1,049
わたしが感動したことばやできごと	553	240	151	944
応募総数	3,043	1,047	397	4,487
応募校数	35	11	7	53

審査にご協力いただいた皆様（敬称略）

☆ 審査委員長（福島県青少年赤十字賛助奉仕団委員長）

○藤田 伸朔

☆ 審査委員（赤十字指導講師、青少年赤十字福島県指導者協議会役員、福島県青少年赤十字賛助奉仕団員）

青田 富男	青田 邦夫	阿部 友紀	石井 幸男
鵜沼美枝子	遠藤さとみ	大山 郁	面川 孝子
春日 芳則	○川田 昌利	菅野 孝司	木下 忠孝
黒澤 一男	後藤さとみ	小林 伸行	木幡 清明
今野 滋子	齋藤 吉成	佐藤 修	佐藤 光男
佐藤 吉則	○佐原 健一	○栢田 祐子	鈴木 昭雄
鈴木 茂郎	○鈴木 進一	鈴木美津子	鈴木 英孝
高野 博幸	高橋 光雄	武田 幸子	田村 良江
○土屋 光啓	角田 和弘	○圓谷 厚子	鶴見 常夫
野口 桂子	菱沼 明美	○平田 州一	廣瀬 要人
福地 敏教	星 仁子	○堀部 誠	目黒美智子
皆川 晃	安田 悠子	山内 寿一	山口 彌代
山下 富夫	山寺 精吉	吉岡 映子	吉田 佳正
吉田和賀子	渡邊 勲		

（日本赤十字社福島県支部）

統括参事

総務課長兼組織振興課長

参事兼ボランティア係長

組織振興課

高野 浩二	岸波 庄一	久保 芳宏	佐藤 敦子	土屋 悦男	小池 樹里
-------	-------	-------	-------	-------	-------

※○印…二次審査員

